

令和7年度 学校評価書(共通) 前期

校名 宇和島市立住吉小学校

1 自己評価書

教育目標	住吉を愛し、夢を持ってたくましく生きる児童の育成					
基本方針	コミュニティ・スクールを推進し、地域の学校支援体制を構築しながら「知」「徳」「体」のバランスのとれた子どもを育成					
本年度重点目標	1 コミュニティ・スクールの推進 2 基礎・基本の定着と活学力の向上を目指した確かな学力の育成 3 一人一人を見つめる生徒指導の充実と人権教育の推進 4 健康でたくましい心身の育成 5 特別支援教育の充実 6 防災・安全教育の推進					
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価	
確かな学力の定着と向上	①	全国学力・学習状況調査及び市標準学力調査の活用	各調査の分析結果を基に、「身に付けさせたい力(学習の目標)」の明確化を図り、組織的に推進することができた。	・分析資料の作成 ・具体的な対策の実施		後期のみのみ
	②	授業改善	主体的・対話的で深い学びの実現に向け、授業モデル「N見方・考え方を養える」を視点を授業改善に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	C B B	B
			ねらいを明確にした分かる授業を行った。	・教師アンケート ・児童生徒アンケート	B A	B
	③	家庭学習の充実	一人1台端末(iPad)やEILS(コンテンツバンク等)の活用により、個別最適な学びを推進したり学習内容の定着を図ったりした。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	B B A	B
	④	読書活動の充実	家庭との協働により、授業と連動させた家庭学習の充実に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	B B B	B
⑤	ふるさと学習及びESDの推進	読書に対する関心や意欲が高まるような取組や声掛けを積極的に行った。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	B C B	B	
		社会や地域の課題解決や活性化に向けた活動及び調べ学習等を通して、地域に対する誇り・愛着の醸成や、持続可能な社会を創造しようとする児童生徒の育成に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	B B A	B	
<p>(成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ねらいを理解して授業に取り組ませることはできたが、主体的・対話的で深い学びの実現には至っていない。</li> <li>・一人1台端末(iPad)やEILS(コンテンツバンク等)の活用は、児童の学ぶ意欲の向上や学力の定着に効果的であった。</li> <li>・家庭学習の内容や提出については個人差が大きく、更に家庭と連携した取組が必要である。</li> <li>・朝読書やボランティアによる読み聞かせなどにより読書意欲の向上は見られたが、家庭での読書習慣は十分には身に付いていない。</li> <li>・地域人材・教材を活用した体験活動等の内容が充実し、児童の学びが深まるとともに、地域への愛着の醸成に効果が表れている。</li> </ul> <p>(改善策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の導入で前時の復習や小テストを行ったり、振り返りの時間を確保し「できるようになったこと」「分かったこと」を明確にしたりすることにより、学習の基礎・基本の定着を図る。</li> <li>・家庭での学習習慣・読書習慣を身に付けるため、家庭への啓発を引き続き行う。</li> <li>・校区の施設や人材を生かした教材開発を更に進める。</li> </ul>						
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価	
生徒指導の充実	①	規範意識の向上	規範意識を高めるための共通理解、共通実践に努め、児童生徒の行動規範が高まってきた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	B B A	B
	②	児童生徒の健全育成	児童生徒に寄り添った対応を行うとともに、児童生徒同士の人間関係づくりや仲間意識に支えられた集団づくりの推進に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	B A A	A
			不登校の未然防止や状況改善に向けて、校内体制の整備と早期対応に努め、チームとして取り組んだ。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A B A	A
	③	関係機関との連携	いじめの未然防止、早期発見に努めるとともに、迅速且つ適切な初期対応や組織的な対応等により、いじめの早期解決に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A B B	B
④	自己肯定感等	スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー、こども支援教室わかたけ等の積極的な活用を心掛けた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	B B B	B	
		自己肯定感を涵養する取組の工夫・改善を具体的にに行った(自分にはいいところがある)。	・教師アンケート ・児童アンケート	B B	B	
		自己有用感(人の役に立っている)や達成感を醸成する取組により、子どもの意識に変化が見られた。	・教師アンケート ・児童アンケート	B A	B	
<p>(成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ルールやマナーを守らない、注意を受けた時は行動を改めようとするが、その意識が継続しないなど、児童の規範意識にはまだ課題がある。挨拶や受け答えにも課題がある。</li> <li>・ハート何でも相談員やスクールソーシャルワーカー等と連携し、不登校の未然防止や状況改善に組織的に対応することができた。</li> <li>・毎月のアンケートの効果的な実施により、生徒指導主事を中心として、いじめの未然防止や早期発見に迅速に取り組むことができた。</li> <li>・教職員が意識して児童の善行を称賛したり、感謝の気持ちを伝えたりすることにより、児童の自己有用感が高まった。</li> </ul> <p>(改善策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・月ごとに重点指導ポイント(挨拶・聞く態度など)を決めて、全職員で共通理解のもと指導を徹底する。</li> <li>・いじめや不登校への対応について、チームでの対応を継続するとともに、SSWやハート何でも相談員などの外部人材をよりよく活用する。</li> <li>・教職員が児童の良さを認め、褒めて伸ばすことを意識するとともに、児童同士が称賛し合うムードを醸成する。</li> <li>・職員会議における児童理解の時間確保を継続する。また、必要に応じてケース会議を行い、多面的な視点で配慮を要する児童の支援策を協議し、共通理解のもと支援に当たる。</li> </ul>						

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満

評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価			
働き方改革	①	ワーク・ライフ・バランス	時間外勤務が月80時間を超える教職員ゼロを目指し、校内で設定した業務改善施策を基に、組織的な働き方改革に努めた。	・教師アンケート ・「出勤・退庁調査」の分析と活用	C C	C		
	②	働きやすい環境づくり	「何でも相談し合える雰囲気づくり」「経験の浅い教職員を皆で支える雰囲気づくり」など、温かく働きやすい職場づくりに努めた。(枠を移動しました。)	・教師アンケート	B	B		
	③	他の教職員のサポート体制の充実	休業日の設定を含めた計画的な課外活動や部活動等の適切な運営がなされた。	・教師アンケート	A	A		
						<p>教職員同士が仕事を手助けしたり、スクールサポートスタッフ、地域人材などを積極的に活用したりして、職場の仕事のサポート体制が充実した。</p> <p>・教師アンケート</p>	B	B
						<p>(成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・会議の効率化、日直業務の見直しなど、限られた人材の中で工夫して業務改善に取り組むことができた。</li> <li>・時間外勤務時間の平均は80時間を下回ったが、月80時間を超えた教職員が毎月半数程度あり、さらなる業務改善の手立てが必要がある。</li> <li>・短時間で効果的な課外活動が実施できている。</li> <li>・スクールサポートスタッフ・用務員・学校補助員・地域学校協働活動推進員・もてころサポーターなどのサポート体制が充実している。</li> </ul> <p>(改善策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年間授業時数を確保しつつ、5時間授業を実施することにより、事務仕事に当たる時間を確保する。</li> <li>・業務について、効果や効率はどうかという視点で反省し、積極的に改善・削減を行う。</li> <li>・文書配布を、できるものから紙からデータに移行する。</li> <li>・これまで同様、短時間で効果的な課外活動の実施に努める。</li> </ul>		
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価			
地域との連携	①	学校運営協議会の活性化	全教職員に対して、学校運営協議会の役割・目的の周知徹底に努めた(校内体制)。	・教師アンケート	B	B		
			学校運営協議会・地域学校協働活動の活性化(地域・保護者へ)を図り、熟議等の結果を基に、地域の力を学校運営に生かすよう努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・地域アンケート	B B A			
	②	情報発信	家庭や地域に対して、教育活動に関する情報を、文書やホームページ等で積極的に発信した。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・地域アンケート	B B A			
	③	来校・相談体制	来客・電話対応を丁寧に行い、保護者や地域の方々の声をしっかりと聞くことで、来校しやすく、相談しやすい体制・雰囲気づくりに努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・地域アンケート	A A A	A		
						<p>(成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校運営協議会の役割や目的について、教職員・保護者・地域の共通理解を図る必要がある。</li> <li>・HP・学校だより・学級だよりのそれぞれの役割を果たす内容での情報発信に努めた。</li> <li>・丁寧な来客・電話対応に努め、保護者や地域の方々が来校しやすい体制・雰囲気となっている。</li> </ul> <p>(改善策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域からの意見を謙虚に受け止め、学校教育活動に生かす。</li> <li>・もてころサポーターや交通安全指導員など、日頃からお世話になっている方へ感謝の気持ちを伝える場を設けることにより、児童の感謝の気持ちを育む。</li> <li>・地域学校協働活動が持続可能なものとなるよう、もてころサポーターを広く募集し、住吉小学校の関係人口を増やす。</li> <li>・丁寧な来客・電話対応を継続するとともに、不明な点は必ず確認をして正確な返答を心掛ける。</li> </ul>		

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満